



巻頭言◆

— 訪日旅行者2000万人時代を見据える中で —

会長 久富 喜美子

2014年度の活動を、会員皆様のご協力をいただきながらその成果のもとに無事終えることができました。特に、カウンター業務をお願いした後、当番表を開きますと、皆様のお顔がずらっと並び、頑張るからねと声かけをしていただいているようで、心強く感じています。厚くお礼を申し上げます。

2013年、2020年の東京オリンピック開催が決まった年に、訪日外国人旅行者は、史上初めて1000万人を超えました。つづいて昨年は1341万人と増え続け、2020年には訪日外国人旅行者2000万人の目標が達成可能といわれています。

そんな中、ボランティアガイドの重要性が再認識されています。特に、SGGは自主的に運営されるボランティア団体であり、基本的には、無理のない余暇時間内で自由に行なうということが基本です。また、地域の人が地域を案内するという原則から、温かいおもてなしに繋がるが多く、この無料ガイド等の善意通訳サービスは外国人旅行者にとって利便性が高く、ニーズもあり、この上なく喜ばれているといえます。私たちの背景にはこういったことがあり、なおかつ、アイセス会員のほとんどすべての人の思いは、“ガイドを楽しみたくて”、“法隆寺をガイドしたくて”——だと思えます。ガイドをした後の達成感と、お客様の“ありがとう”、そして“どういたしまして”の交換の瞬間の喜びは、私たちの明日への力となります。

私たちは元気である限り、この素晴らしいボランティアを楽しみ、継続していくでしょう。ただ、私たちは次の世代を育てていくことも頭の片隅でもよいので、認識することが必要なのです。幸い、アイセスでは、「中学生の英語での法隆寺案内学習」のサポートをしています。これは次世代育成という観点から非常に大切なことで、今後も皆様のご積極的なご協力をお願いいたします。

今年度も皆様のご協力をいただきながら、役員6人で力を合わせ、よりよいアイセスを目指して努力してまいる所存です。宜しくをお願いいたします。

最後になりましたが、観光協会会長小城利重様はじめ観光協会の皆様には、今後ともご指導ご支援をお願い申し上げます。

観光庁長官より感謝状が授与されました。

「善意通訳普及運動 創設50周年記念行事」において、国土交通省観光庁より、斑鳩アイセスSGGに「優良団体」として感謝状が授与されました。

これは、全SGG (Systematized Goodwill Guides) 90団体の中、総合的に功績が顕著な優良団体として19団体に感謝状を授与されたものです。

アイセスは2013年10月に20周年を迎えましたが、この受賞は先輩諸氏の努力の賜物として敬意を払うと同時に、今後の私たちの活動もそのことを肝に銘じて、法隆寺を訪れるお客様に案内したいと襟を正しているところです。

SGGの主な活動は、観光案内所や駅などの案内(通訳)業務、同行案内業務(無料ガイド)、外国人向け資料の翻訳業務などで、当会はどの部門にも力を入れています。

最後になりましたが、受賞に際して、観光協会会長小城利重様はじめiセンターの皆さまに改めまして深くお礼申し上げます。



平成26(2014)年度の主な活動

◆平成26年度 主な活動内容報告

(活動期間 : 平成26年4月1日 ~ 平成27年3月31日)

- 4月 6日 春のガイド活動強化期間終了
- 4月 27日 平成26年年次総会
宇治知子氏が日本政府観光局(JNTO)から表彰されたことが発表された
- 5月 16日 国立民族博物館研究協力課招聘の多国籍10名を含む17名をガイド
- 5月 25日 定例会 講演 講師:帝塚山大学甲斐由美子氏「若草伽藍の瓦に見られる外来要素」
～聖徳太子の外交政策～
- 5月 28日 阪大主催の国際学会出席者200名を20名のガイドで案内
- 5月 31日 産業技術研究所から依頼のフランス人、日本人計25名を仏語ガイド2名で案内
- 6月 16日 斑鳩中 142名の法隆寺学習に14名のガイドで対応
- 6月 19日 斑鳩南中 112名の法隆寺学習に16名のガイドで対応
- 6月 22日 定例会 A 班学習発表
- 6月 27日 財貿易研修センター招聘の3か国の教師の斑鳩西小学校訪問を10名のガイドで支援
- 6月 30日 斑鳩中生徒に法隆寺について講義
- 7月 7日 斑鳩南中生徒に法隆寺について講義
- 7月 27日 定例会 B 班学習発表
- 9月 23日 ユネスコ招聘の16か国の文化財保護専門家16名をガイド
- 9月 26日 斑鳩南中119名の生徒の校内学習を10名のガイドで支援
- 9月 28日 定例会 講演 講師:法隆寺高田良信長老「法隆寺雑学散歩①」
- 10月 17日 斑鳩南中の法隆寺実地ガイドを7名のガイドで支援
- 10月 22日 研修旅行 播磨地方に古刹を訪ねる
- 11月 3日 英国 Kingston 大学の建築科学生25名をガイド
- 11月 6日 斑鳩中143名の生徒の校内学習を8名のガイドで支援
- 11月 11日 京都大学農学研究室14か国31名の団体を9名のガイドで案内
- 11月 15日 神戸大学主催国際学会90名を20名でガイド
- 11月 23日 定例会 C 班学習発表
- 12月 2日 斑鳩中の法隆寺実地ガイドを9名のガイドで支援
- 12月 15日 斑鳩町主催の法隆寺防災訓練に参加
- 12月 21日 定例会 親睦クリスマス会
- 1月 25日 定例会 D 班学習発表
- 3月 1日 2月度定例会 講演:中宮寺 島野尊章師 「怒りについて」
- 3月 22日 定例会 E 班学習発表



秋 バス研修旅行の感想

10月22日、秋の親睦バス旅行、28名の参加で開催された。小雨降る中、8時30分斑鳩町役場駐車場を出発。今年、播磨地方の古刹を訪ねる旅である。

まずは法隆寺から随分遠く離れた小野市の浄土寺到着。ボランティアガイドさん2人が雨の中迎えてくださった。

800年前の鎌倉時代初めに建立された寺院である。国宝の阿弥陀如来と両脇時立像が浄土堂中央、円形須弥壇上に立っておられた。

残念ながら雨天ゆえ、外光の反射経路から入ってくる光で神々しく照らされた如来様を拝むことはできなかったが、大きな如来様の前に座し見上げると目と目が合った。心の中を見透かされているようで恐ろしくもあり、また反対に、心が洗われたような気持ちにもなった。

次の訪問先は加古川市の鶴林寺。広い境内、傘の花である。本堂から太子堂、そして宝物館へと、副住職のご案内で回る。ご本尊は薬師如来様。「お目にかかれて有難うございます」と御礼を言った。太子堂は桧皮葺の優美な建築、中には九品来迎図、仏涅槃図、柱絵等の壁画が描かれている。しかし長年の灯明の煤で覆われていて見ることはできないとのこと、でもやっぱり覗いてみた。想像の世界が広がった。

宝物館の白鳳時代の金銅聖観音立像は、腰をひねり、腰が美しくくびれている。その上を流れるように衣が覆っていて、静止されているのに動きがあって、とても美しかった。



最後は太子町の聖徳太子ゆかりの斑鳩寺へ。ここも副住職のご案内で、まずは聖宝殿へ。国指定重要文化財の聖徳太子勝鬘経請讚図等々があった。正面には木造の如意輪観音、釈迦如来、薬師如来、それぞれの座像のお出迎えを受けた。印象深かったのは、聖徳殿奥殿。聖徳太子16歳のお姿が安置されている。

髪は長く、昭和37年に高松宮宣仁親王様から寄進されたと言う衣を身に纏っておられた。暗いお堂の中、電球で照らされたお顔、お姿、法隆寺で拝見しているお姿とはかけ離れて、強烈で、生を感じたのは私だけだろうか。

法隆寺の中門の左側にある、石のモニュメントはここ斑鳩寺から寄贈されたものである。多くの知識を得ることができたバス旅行であった。 八尾 鈴子 記

数字で見る活動実績

平成26年度ガイド件数と人数

	上期	下期	合計
件数	301	380	681
人数	1368	1257	2625

ガイド活動強化期間実績

年度		2012	2013	2014
春 (人)	外国人	261	151	164
	日本人	51	75	107
	合計	312	226	271
秋 (人)	外国人	179	204	143
	日本人	86	72	86
	合計	265	276	229

2014年度春節ガイド活動強化期間

中国・台湾	55人
その他	7人
合計	62人

団体ガイド (10人以上)

日時	団体名	人数	
		ゲスト	ガイド
4月 7日	米国人団体	12	1
5月16日	国立民族博物館	17	3
5月28日	国際学会(阪大経由の依頼)	200	20
5月31日	産業技術研究所	25	2
6月16日	斑鳩中学校(日本語)	142	14
6月19日	斑鳩南中学校(日本語)	112	16
6月29日	米国アラバマ州高校生団体	18	8
9月23日	ユネスコアジア文化センター	16	4
10月25日	同志社大国際交流センター	15	2
11月11日	京都大学農学研究室	40	9
11月15日	国際学会(神大経由の依頼)	90	20
11月22日	中国人団体	16	6

Welcome!! 国際学術会議参加の皆様

5月28日 阪大主催の国際学会の参加者200名という大人数を20名のガイドで案内した後のことです。最後に南大門に帰って来たお客さんたちが一様に立ち去り難い様子で担当ガイドと交歓されていました。

南大門前広場がお蔭で、人で埋め尽くされました。幸い、夕方4時を過ぎていて、今から参拝に入るお客さんがおられなくて邪魔になることがなくて良かったです。

この光景はこれまでも大人数の団体をガイドした後で必ず見られましたが、今回も全く同様でした。

私たちボランティアガイドの案内が、手作りで、職業ガイドとは異なる善意、親切心をベースとしていることがお客さんにもしっかりと伝わっているからだと思います。学会の主催者である阪大の教授からも、ここまで懇切なガイドをして貰えるとは、と感謝の言葉を頂きました。



海外のお客様からのメッセージ

Thank you mail from visitors !

From USA 2014.6.26

Thank you so much for giving us a tour of the temple. Your tour was very interesting and informative, and made all the difference. We (me and Antonio) were visiting Nara just for the day, our one free day during the 12-day business tour we conducted in Japan. We were so lucky to be able to meet you. After the temple, we went to Todai-ji Temple, and we wished you were there as well. Please take care. I hope to see you again!



.....

From Germany 2014.11.15

I came back with a good feeling from our time in Horyuji. It was a very impressive temple and a very insightful tour. And in addition, I found it very interesting to hear about Japan's attitude towards deceased persons and the end of their personal 'guilt'. This explains a lot to me and brings Japan more close to me. Japan is a very interesting country with a deep culture and long history to explore. I definitely have to come back! I attached to this mail the picture of us taken at Horyuji.



.....

From China 2015 during lunar New Year holiday.



非常高兴有机会认识您，也非常高兴我们可以因为您的讲解更好的了解了法隆寺。现在把我们一起的照片发给您。希望有机会我们下一次去日本玩，还可以请您给我们做导游！（和訳：あなたにお会いできてとても嬉しかったです、私たちは、あなたのガイドのお陰で法隆寺をより深く知ることができ、とても満足しています。その日に一緒に撮った写真を添付します。また日本に行く機会があれば、ガイドをしてくださることを願っています！）

上記訪問者の友人宛への感想文：「法隆寺の入り口で偶然出会った無料中国語ガイド、七十三才。毎週一回ここに来てガイドをする。旧正月の時は中国人観光客が多い為、彼は毎日来て一日中ガイドしている。伽藍、建物、講堂、仏像、壁画などの歴史ストーリーを次々語られていく。中国語は完璧とは言えないが、持っているバックの中から二冊の使い込んだ日本語表記及び中国語案内書をつと取り出して、時には電子辞書を見て、真剣そのものだった。玉虫の話になると、意外にも一匹のキラキラしている見本を取り出して見せてくれた。追いつかない程の健脚である。ガイドをする為、家からここまで車で20分かかる。彼はあるSGGのボランティア団体に所属している。SGGは日本各地でも、このようなサービスをしている人と言う。この方は、六十四歳から中国語を学んで、なかなか覚えられないが、今になってすっかり彼の趣味になってきた。幸いにして彼の案内のお陰で、この古い歴史をもつ寺に更に愛着が湧いてきた。別れる際彼が自ら折った鹿の折り紙と申込書のついたパンフレットを我々に下さった。私ははっと思ひ出してここ数日、お寺にこのような老人が、とても真剣に解説している姿を見ていた。本国の国民はこのような無料のサービスに多々心配と不安があると思っている。私もそうだが、毎回国外ではこのような優待のサービスを受けた後、いつも嬉しい反面残念な気持ちも交じっていた。しかし人との出会い旅は面白いのです。」

班活動

A 班

野外学習 ＊いずれも厩戸皇子(聖徳太子)に深く関わるテーマです。

- 1) 10月29日実施、テーマは、「蘇我一物部氏最期の決戦・古戦場巡り」で、聖徳太子が物部守屋を討伐せんと河内へ向かう途中、戦勝祈願に立ち寄られたとされる信貴山、朝護孫子寺を拝観。霊宝館で職員の方の説明とともに、国宝の信貴山縁起の一つ「飛倉の巻」原本絵巻も運よく拝観。その後、八尾市へ移動、両氏のであったと想定される光泉寺、衣摺の地稲城址を見学、次に第一の激戦地であったと想定される太子町「大聖勝軍寺」を様々な遺跡とともに住職様の説明付きで拝観。参加者12名。
- 2) 1月26日実施、テーマは「四天王寺とその周辺」で、四天王寺は法隆寺とともに聖徳太子建立のお寺ですが、1)のテーマとも繋がっており、両寺を比較できた。その周辺では、観光ボランティアガイドの案内で「真田幸村、冬の陣ゆかりのコース」散策見学。参加者11名。

学習発表会

6月22日実施、講師:鈴木正三氏、テーマは「法隆寺金堂壁画」と「つづれ織り」、ミャンマー訪問記、インド訪問記でいずれのテーマも実際にご自身の足を運ばれ、目にしてきたもので、学術的な角度に視点をおかれ、スライドを使用するなどして、大変貴重なレベルの高い発表でした。(松本)



B 班

Time Flies! 振り返ってみれば、、、

4月、定例会後の最初の班会で「のんびり」やることに決まる。7月、定例会でのB班発表＝B班の4名がそれぞれ工夫を凝らしガイドに関連したテーマで発表。
7月12日(合同班活動)＝通訳ガイド案内士の早川晃さんとガイド学習。

8月23日と24日(合同班活動)＝早川さんの指導でワークショップ実施。

10月3日(B班企画)＝ならまち散策と奈良国立博物館・中国青銅器展鑑賞。青銅器展のガイドはA班鈴木さん。

3月24日＝王寺町リーベル地下「百楽」にてB班懇親会。

振り返ってみれば、本当にのんびりしたB班の活動でしたが、活動ごとにおしゃべりが盛んで、会員間の交流やガイド情報交換の場になったのではないかと思います。ガイドの悩みや不安を分かち合えたのは勿論、他会員のキラリと光る工夫を体感できたりしたのも楽しかったことの一つではないでしょうか。また、合同班活動ワークショップでは多くの方々から継続の希望が出ています。今後の課題として提案します。(井戸)



C 班

私達C班は、個性豊かな皆様で班長としては、とても恵まれていました。ガイドの依頼も、積極的に挙手して頂き、何の労もなく連絡係だけを果たせば良いというものでした。また、その最たるものが班の研修発表だったと思います。メンバーの方達が特色あるテーマを選び、それに準じた発表をして頂いたのも、とても興味深いものに仕上がっていたようです。

手水舎に始まり、寺内の四天王、飛天、龍、仁王からラングドン・ウォーナーそして、諸外国訪問者に合わせての特徴ある話題、また、チェコのストラホフ修道院と法隆寺の大講堂は、共に聖職に就く者の研鑽の場としての共通点と対比等、幅広い視点からの研修があげられました。

長年の惰性に任せて、ガイドにあたっている者としてとしては、とても刺激的で頭の下がる思いでした。

数少ない班活動だったので、皆様の活力をその時に集約出来たのではないかと、班長の怠慢を納得させようとしています。多大なサポートを有難うございました。（終）



D 班

D班は年度後半に下記2件の勉強会を行いました。

1. 野外勉強会 11月2日

天理大学資料館の山内先生のご案内で、木津川市にある恭仁京跡、鹿背山に行きました。

生憎の雨で甚だハードな行程となりましたが、それを補って余りある有意義な勉強が出来ました。

2. 室内学習会 1月25日

古川さん、服部(聆)さん、小菅さん、高城さんがそれぞれ、(先述の名前の順に)1. 聖徳太子の師である高句麗僧惠慈 2. 聖徳太子の書 3. 法隆寺建築物の設計 4. 画像を使った法隆寺の英語でのガイド などの研究成果を発表され、今後のガイド活動のための良い勉強となりました。（半井）



E 班

【E班はイイ班】

班の中でも経験年数の浅い私が、思い切って班長に立候補してから、一年経ちました。メンバーは積極的に意見を発信してくださる方ばかりで、最初の班会で今年度の班活動の予定は大ぼぼ決まってしまいました。私たちの班活動の目的は、「実践のガイドに役立てる」こと。あまり派手で物珍しいテーマの学習会ではありませんでしたが、法隆寺から歩いていける史跡の知識をおさらいし、お客様の様々な要望に答えられることができれば、と考えていました。あまり時間がない方には、「法隆寺ガイドショートコース」。歴史に興味はないけれど日本らしい写真を撮りたい方のための、「法隆寺内ベストフォトスポット」。古墳とは何か？と疑問がある方には「斑鳩文化財センター」。一面のコスモスと三重塔の写真を撮りたい方には「法起寺裏のあぜ道」。お客様の国籍に関係なく、知っていれば提案できる、法隆寺周辺の魅力を追求することができたのではないかと思います。何よりもメンバーの皆様の協力的な姿勢が毎回の班活動を盛り上げたと感じています。E班だけに、とっても充実して、「イイ」班活動ができたと思います。（多賀）



ICES になりました (新入会員のことば)



昨年の秋に入会し、約 1 ヶ月と少しの準備期間を経て 11 月に初めてのガイドに。

最初の関門は顧客を捕まえる事。先輩達の様には上手く行かず 1 時間立ちんぼ。

そして日本人 2 名ラトビア人 2 名の 4 名のグループ。時間が 1 時間で、と。コレは困った! とにかく覚えた内容を早口で喋るしかない。英語を機関銃のように話す。何の余裕もない。喋れば動く、喋れば動く、、、。しばらくしてアレ???という感じに。顧客が「急がなくていい」と。池田さんが言われてたのはコレか!!!と。そして話も歩調もゆっくりに。宝蔵院で 17 条憲法の説明。ここは最も大事と、

聖徳太子が仏教を広めようとした目的、当時の日本の状況、そして憲法の説明。すると「その憲法は今の日本の憲法に活かされていますか」との質問。「コレは困った、今の憲法は米国が作ったもの」と頭の中で言葉が回る。そこで「米国が作った物ではあるが戦争放棄の条文を 70 年間大事にしてきた」と説明。それにはラトビアからこられた二人が同時に大きく頷かれて、ホッと。結局 1 時間半。

「思った以上に疲れるなあ、このガイド」と思っていると、「今日は楽しかった」と笑顔と伸びてきた握手の手。コレか! 皆さんが頑張る理由は。偶然が偶然を呼んで始まった私の guide。チョット続けてみようかな、と。

奥川 春輝

私の初めてのガイドは、ICESに加入してひと月あまりが経った、昨年 9 月のことでした。

お客様は中華系米国人のお母さんと、香港在住のお嬢さんでした。ICESでは加入後に大変丁寧な研修があり、また諸先輩からもアドバイスをたくさん頂いておりましたが、自分にガイドができるかまだ不安で、先輩に背中を押して頂いて、ようやく飛び出した感じでした。そうして汗をかきかき、お客様にも助けて頂きながら、何とか初めてのガイドを終えたことを、よく覚えています。

お客様のお母さんはとても優しく、きれいな

お嬢さんは仏教に深い関心がおありで、初めてのガイドでは、法隆寺を通じて奈良から世界に私も繋がったような、とても不思議で貴重な体験でした。

これからも、ガイド活動を通じて、ほんのわずかでも奈良からの国際交流のお手伝いできればと思います。



西辻 郁

【平成 26 年度(2014 年度)の入会者】

西辻郁世、奥川春輝、高城勝實、三木辰之、大倉美知子、徳本棟彦、岡本よしか

斑鳩アイセス SGG の概略

設立: 1992 年 10 月
会長: 久富 喜美子
会員数: 60 名(2015 年 3 月末現在)
会員年齢層: 30 歳代~80 歳代
活動実績: 約 2,500 人のお客様にガイド(2014 年度実績)

【編集後記】

1 年間の活動の成果をお届けします。今年度はカウンター活動をしっかりやることの再確認に加えて、中国語グループの春節のガイド活動強化という新しい試みもありました。来る新年度も楽しく頑張りましょう。(梅)

発行責任者

斑鳩アイセス SGG
会長 久富 喜美子
事務局
法隆寺 i センター内
電話: 0745-74-6800
ファクシミリ: 0745-75-9090